追悼　そして明日へ

理事長　南大路　文子

六十周年を迎える西陣会にとって、今夏は悲しい出来事が続きました。その歴史と共に歩んでくださったお二人の方が亡くなったことです。お一人は、前理事長の水上雄一郎さんです。病気療養を続けておられましたが、六月七日に逝去されました。八十三歳でした。水上さんは初動の時代から活動に加わられ、ご自宅を開放して聖書を読む会を主催し、地域で働く人たちが集まる場を提供してくださいました。この「水曜集会」が現在の「月曜集会」に引き継がれています。そして、二〇一〇年から二〇一九年まで理事長を務め、活動の幅を広げつつあった西陣会を牽引し、重責を担ってくださいました。会議では、議長として出席者が発言をしやすいように穏やかでやさしい笑顔を絶やされませんでした。と同時に、職員に対しては実務的で的確なアドバイスをしてくださいました。私が理事長を引き受けるかどうか迷っていたときに電話をいただき、「いつでも相談にのるから」と背中を押してくださいました。そのときにいろいろお話できたことで、お引き受けする決心がつきました。

訃報を受けて西陣会の方たちと和邇のご自宅まで弔問にうかがいましたが、理事長時代に夜の会議が多かったにもかかわらず西陣までこの距離をご自分で運転して来てくださっていたのだと、あらためて感謝の気持ちを強くしました。

深田未来生先生は、同志社大学を退職されてここ二十年近く、京都とカリフォルニア州クレアモントを行き来して過ごされていましたが、六月二十五日早朝（現地時間）、クレアモントのご自宅で亡くなりました。八十九歳でした。先生も水上さんとご一緒に六十年余り前に西陣で社会活動の拠点作りに携わられました。設立当初のご苦労をよくうかがいました。センター立ち上げを先導する先輩方を車に乗せ、個人のお宅から企業や教会まで一軒一軒寄付のお願いに回ったことや、職員の給料を支払うのにも困ったというお話はとくに印象深く記憶しています。一方先生の幅広い人脈が西陣会の様々な活動を豊かにし、日本だけで

センター便り
絆
きずな

第191号

発行所
社会福祉法人
西陣会
HP:http://www.nishijin.org
E-Mail:nishijinkai@nishijin.org

〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL（075）451－8971
FAX（075）451－5700

発行者：南大路　文子
編集責任：土屋　健弘

郵便振替口座
01030-5-23086

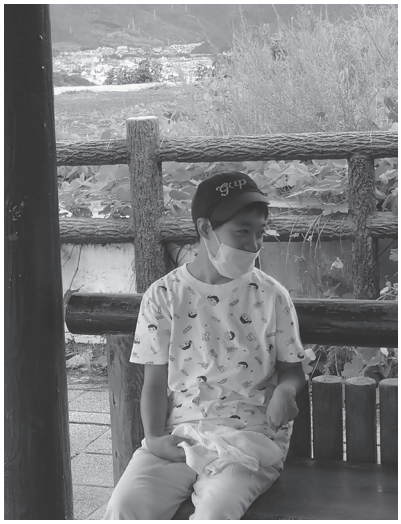
ホームページでもご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

なくアメリカでも知られるようになり、支援を得ることに繋がりました。実践神学の専門家であり、宣教師であり牧師でもあった先生は、「聖書を読むだけではだめだ。実践が大事だよ」とおっしゃっていました。その思いは「西陣会の理念と活動」に表されています。先生が西陣会のことを最後まで「センター」と呼ばれたのは、ここに人が集まり、人と人、人と地域を結び、拠り所を提供する中心であり続けることを願っておられたからだと思います。昨年夏には職員研修の一環として西陣会の歴史を語り、九月まで「月曜集会」に出席し、最後まで「センター」に心を寄せてくださいました。

誕生とその後の歩みを知る歴史の生き証人がおられなくなることは、どのような活動や組織にとっても大きな損失です。けれども先人の思いを共有し、日々の仕事を大切にし、次の種を蒔いて明日に繋ぐことが遺された者の責任です。私たちも、力を尽くしてくださったお二人の功績を忘れず、未来へのメッセージをくみ取り、私たち自身の新しいページを開いていきたいと思います。

白い小箱納品無事終了！



将軍塚にて

クリーンウォーク

西陣会
60周年記念イベント

日時：2022年11月27日(日)

Zoomを使用してのオンラインイベント

参加費 無料

※記念新聞の準備も進めております。
※詳細はちらしをご覧下さい。

Zoom上でお会いできるのを楽しみにしております。皆様とご一緒に六〇周年を迎えたいと思っております。

地域生活支援ニュース

デイセンターふらっと

パラリンピックにボランティア参加して

荒谷尚子

二〇二一年九月。私はTokyo２０２０開催中の国立競技場にいた。各国選手が練習に余念のない中、晴れ渡る空に、ひときわ大きな声が響いていた。男子走り幅跳びに出場する知的障がい日本選手の声だった。コーチとの力の限りの声の掛け合いに、本番までに疲れてしまわないかと心配になるほどだった。結果は四位ながら自己新記録の快挙を成し遂げられた。

会期中の私の役割は、中米ニカラグア選手団の支援で、競技や練習のための移動車両手配や同行、選手村内の医療機関や銀行、買い物等の同行や通訳だった。固い雰囲気はなく、団員の誕生日をケーキと歌で祝うなど、楽しい交わりの日々だった。全盲の女性陸上選手へ、持参したミニ点字器で人生初挑戦の点字の手紙をスペイン語で書くと、喜んで読んで頂けた。選手団用の段ボール製ベッドが居室に「二台あるからナオコも泊まれるよ。」と誘って下さる。彼女の「私は先天性の障がいで良かった。」の言葉に、はっとする。恋愛し結婚し、仕事や育児をしながら選手生活を続ける彼女は、多くは語らないが、中途失明と違い、見える生活との比較がないからだけではなく、自分に与えられたものに、しっかりと向き合い生きている人だから、そう思うのではないだろうか。

障がいを含めた自身と向き合い築く人生。デイセンターふらっとを利用される方々とも、業務の中で支えるばかりではなく、笑いあったり和やかに過ごす時は多い。そのような交わりを繰り返し、その人の生き様のようなものが築かれる。その場に居合わせる幸いを思う。

デイふらエコ活動中

西陣会居宅サービス係

初心の大切さ

森勇輝

八月に京都府主催のサービス管理責任者研修（基礎）へ、グループファシリテーターとして参加させていただきました。この研修は生活介護事業所やグループホームなどで利用者さんの個別支援計画の作成や評価、見直しができる人材を養成していくことを目的として開催されています。

今年度もしっかりとした感染防止対策が行われた中で集合研修（オンラインではなく、受講生が会場に集まっていただく形式）での開催でした。内容はグループワークが多めの構成になっており、それぞれの受講生が意見を出し合いながら一人の利用者のための計画をたてていきます。一生懸命取り組む受講生の姿や思いを受け止めながら、講師で参加している自分も毎年とてもいい刺激をもらっています。

ふと、自分の現場に立ち返ってみると、どこまでのことができているのか。その一人の利用者にどれだけ向き合えているのか。生活の充実はもちろんですが、楽しいこと、笑えること、うれしいと思えることがどれだけできているのか。コロナ禍で制限されている中でもできることはないか、日々考え模索しているのか。初心の大切さ、慣れていく中で失ってしまっている感覚や意識があることを実感します。

初心忘れるべからず。

基礎を見直して、その上に経験や知識を上乗せして、より良い支援をしていきたいと思います。

地域活動支援センターふらっと

暮らしの隙間のご褒美

坂本隼哉

地域活動支援センターふらっと（夜ふら）は月・水・金曜の晩、京都市民福祉センターのコミュニティーサロンにて、それぞれ個性あふれるメンバーと、余暇活動をします。

みんなそろってキメポーズ「やぁー!!」（水ふら）

私が好きな夜ふらの活動の一つに「音楽活動」があります。そこでは、音に乗せて体を動かしたり、楽器を演奏したりします。隣の人と顔を合わせながらできた時、みんなで音を合わせられた時は、とっても嬉しいです。夜ふらは、自分の暮らし、お仕事などから少し離れた別の場所で楽しいことができるという魅力を持っています。

コロナ禍と呼ばれる時代に入ってから、もう少しで三年になろうとしています。この期間で「日常」と呼んでいたものは大きく変わりました。それはこの夜ふらも例外ではありません。

メンバーたちは、密にならないよう、二つのチームに別れて活動をしています。そのため、それぞれのチーム同士が一同に会することはありません。私自身も入職時にはすでに流行り病の世の中であったため、この歴史ある夜ふらの「日常」、メンバー全員が集まって行う活動を見たことがありません。そのため、他の先輩職員やコロナ禍以前より関わってくださっているボランティアさんからの「日常」のお話は、幼い頃に聴いた冒険の物語みたいに、とても魅力的に聞こえます。

メンバーと職員、ボランティアさんたちが作りあげてきた夜ふらっと。参加した人全員が明日からも頑張れる、もらえたらうれしい「ご褒美」のような楽しい時間になるよう、私も日々精進していこうと思います。

ねらいをさだめて!!（金ふらぼっちゃ）

シェアハウス小松原の家

いまだからこそ

事業責任者　本林直人

西陣会が小松原北町南部町内会の町内会長を初めてさせてもらったのが、十年前。シェアハウスを始めたのが七年前で、この間、法人としては、町内活動やイベントに参画し、シェアハウスにお住まいの方も地蔵

盆や区民運動会に参加して、緊張しながらも、町内の方に声を掛けてもらうことで、嬉しそうにされている姿をみて、とても良い時間だと思っておりましたが、新型コロナウィルスの影響で町内活動も自粛となり、町内の方達にお会いする機会がめっきりと減ってしまいました。いつウィルスが終息するのかわかりませんが、今後も町内活動にも影響がでてくることと思います。その中で、町内の一員として、どのような交流ができて、共助が出来るのか、シェアハウスにお住まいの方達にとって、町内の方達にとって住みやすい町とは何か？障害があるからだけでなく、町内の一員として、社会福祉法人として、皆で一緒に考えられるようにしていきたいと思っております。

支援センター「きらリンク」

つながり作り

相談員　佐藤　匡

北部圏域での取り組みとして、相談支援事業を実施している、あるいは実施を検討している事業所や医療機関の管理者・相談支援専門員候補などを対象に事業を実施する上でのお悩みや学びを共有していく「相談支援事業所座談会」を定期的に開催しています。

利用者の生活を支えていくためには相談支援事業所による計画作成が望まれますが、事業所数やそれに従事する相談支援専門員はまだまだ不足している状況にあり、この状況を少しでも好転させたいとの思いから始め、そのおかげで顔見知りになり、ちょっとしたことでも話し合いやすい関係作りができてきているのかなと感じています。基本は対面開催で状況によってオンライン開催としています。

それに加えて今年から、日中支援時間帯に業務を抜けては参加しにくい支援者が参加しやすい場作りとして「夜の交流会～誰に相談？どこに相談？支援に悩む私たちの時間～」を開催しています。こちらはいつどこででも参加できるようオンライン開催としています。

こちらは一昨年に起きた総合支援学校高等部在籍の生徒が母親の手にかかり亡くなるという痛ましい事件を受けて、支援者が〝気づいたこと〟〝感じたこと〟を気軽に発信でき、悩みを抱え込まないようにすることを意図しています。まだ始めてみたばかりですが、飲み物片手に気軽に参加してもらい、ちょっと話していこうかなという会になっていけたら良いなと思っています。

支援センター「にしじん」

相談支援専門員カフェについて

相談員　藤原　暢子

支援センター「にしじん」は、京都市中部障害者地域自立支援協議会の運営を担っています。今回は、相談支援専門員カフェについて、ご紹介します。

平成二十四年から計画相談支援が始まり、様々な場面で、相談支援という言葉を聞くようになったように思います。相談支援専門員は、障害のある方が自立した日常生活や社会生活を送ることができるよう、全般的な相談支援を行います。

しかし、一人職場で、相談する相手もいない相談支援専門員も多いため、相談支援専門員自身の孤立化を防ぎ、業務の中で出てくる疑問や悩みを話せる場として、相談支援専門員カフェを始めました。

具体的な活動としては、二ヶ月に一度、中部圏域の相談支援専門員で集まり、近況報告したり、円滑に相談支援を行うための研修会や座談会を行っています。

先日も『今は親御さんと暮らしておられるご利用者の今後の生活について』というテーマで、日々感じている事等を共有する機会を持ちました。各々が関わっているご利用者を思い浮かべながら「今の内から少しずつでも出来る事を考えて、ご利用者や親御さんに提案できないだろうか？」や「親なき後というと身構えがちだが、地域に気軽に体験できるグループホーム等あれば試しやすいのではないか？」等、思いつくままに話しました。まずは今の生活のご相談にのりながら、その方の一歩先の生活や緊急時の対応等にも目を向けていけるような、そんな話をしていける場にカフェがなっていくと良いなと思いますし、そこで得たものをみなさんにお返ししていけたらと思っています。

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

扉を開けると祭り太鼓が聞こえてくる

松井美穂

コロナ禍の中、迎える三度目の夏。館外活動も考えましたが熱中症も心配し断念しました。いろいろな制限がある中、どんな夏を過ごすのか、どんな体験をしてもらいたいのかを考え、夏の企画を考えました。

夏といえば『夏祭り』と企画を進めていく中、子どもたちにも一緒に何かやってもらえないかと計画。私は子どもたちの絵が好きなので、看板作りをお願いしたり、ヨーヨー釣りや風船を膨らませたりやってもらいたいと思いました。私が事前準備を進めていく中、「なにしてるん?」「手伝おうか?」と声をかけてくれる子どもたち。この声をかけてくれるというのは、日頃から子どもたちに伝えていることでもあります。困っている人がいたら声をかけてあげる。手をかしてあげる。とても大事なことだと私は思っています。この準備の時も、やりたい!と言ってくれる低学年を高学年が自ら考えてサポートをしてくれうれしくなりました。私たちがどう言葉掛けをするかによって、子どもたちがどう成長していくのか。実感できた瞬間でした。

当日は、子どもたちにもお客さんとして遊んでもらう側だけでなく、店員さんとして、おもてなしをする側にも挑戦してもらいました。いらっしゃい!声をかけたり、景品を配ったり、太鼓を鳴らしたりと子どもたちなりに考えてやって祭りを盛り上げてくれていました。祭りらしい音楽に合わせて太鼓を鳴らし、気分は神社のお祭り。とても楽しい雰囲気でした。

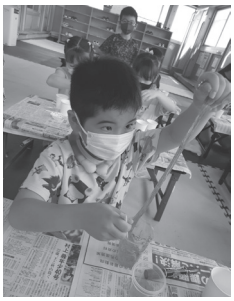
準備から終了まで、子どもたちにも助けられ、「夏祭り楽しかった」という声をたくさんきくことができました。準備をしてもらうための準備はもちろん必要ですが、子どもたちができることは無限にあるのだなと思いました。

次やるときは、企画からお願いしてみようかな。自分たちで考えたものが実現する面白さを知ってもらえればなと思います。

にしじん　なつまつり　ギャラリー

まつりがはじまるよ〜

おさかなつり


ビヨヨーーン（スライムづくり）

わっしょい！おみこし

ねらいをさだめて！（射的）

わたしのヨーヨー♡

活動日誌

【本部・京都市民福祉センター】

7月
- 7日　60周年イベント会議
- 11日　キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 月曜集会
- 19日　レクリエーション委員会
- 21日　60周年イベント会議
- 25日　産業医面談
- 28日　安全衛生委員会
- 労基署調査

8月
- 3日　記念新聞取材
- 5日　総務委員会
- 22日　キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 産業医面談
- 安全衛生委員会
- 29日　ステップアップ研修①委員会

9月
- 12日　キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 月曜集会
- 15日　相談係座談会（武田理事）
- 22日　新任職員研修（南大路理事長）
- 26日　産業医面談
- 安全衛生委員会
- 29日　月曜集会
- 新任職員研修（中山理事）
- 30日　総務委員会

月曜集会当面の予定
10月17日・31日、11月14日・28日、12月11日、1月23日
（変更の可能性があるので直接おたずねください）

【西陣児童館】

7月
- 8日　民間ネットワークZOOM総会（中山）
- 15日　乾隆小学校学校運営協議会（中山）
- 25日　小学校夏季休暇期間【8月24日まで】
- 26日　避難訓練

8月
- 5日　防犯講習
- 18日　ミニミニ夏祭り
- 23日　夏のエンターテイメントショー

9月
- 24日　出前児童館（ミニミニ秋祭り）
- 26日　避難訓練

【居宅サービス係】

7月
- 10日　居宅職員会議、サービス提供責任者会議

8月
- 21日　居宅職員会議、サービス提供責任者会議
- 2日　サービス管理責任者研修講師派遣（森）【3日・25日・26日】

9月
- 17日　ヘルパー研修会（虐待防止研修）
- 18日　居宅職員会議、サービス提供責任者会議

【デイセンターふらっと】

7月
- 12日　家族会総会
- 22日　コンサルテーション4回目

8月
- 25日　サービス管理責任者研修（基礎）受講【～26日】

9月
- 8日　ご利用者の歯科健診
- 26日　コンサルテーション5回目

【きらリンク】

7月
- 1日　北部自立支援協議会運営会議
- 6日　障害者地域生活支援センター連絡会議
- 8日　北部自立支援協議会全体会議
- 27日　基幹センター会議

8月
- 3日　左京こころのふれあいネットワークワーキング会議
- 10日　障害者虐待防止窓口職員向け研修
- 19日　相談支援スキルアップ研修
- 24日　基幹支援センター事業権利擁護連絡会

9月
- 3日　北部自立支援協議会支援センター部会
- 5日　北部自立支援協議会児童養護自立支援連絡会
- 12日　北区こころのキャンバスネットワーク実務者会議
- 22日　障害支援区分審査会
- 26日　北部自立支援協議会児童部会
- 21日　中部自立支援協議会運営会議
- 21日　中京区権利擁護支援ネットワーク
- 25日　下京子ども家庭支援ネットワーク
- 26日　上京ねっと総会
- 27日　基幹支援センター会議

8月
- 18日　中部自立支援協議会相談支援専門員カフェ
- 24日　基幹支援センター会議
- 25日　ひきこもり支援ミーティング（上京区）
- 29日　相談支援専門員現任研修講師派遣【～31日】

9月
- 6日　令和4年第2回自立支援協議会児童専門部会
- 8日　機能集約合議体
- 15日　中部自立支援協議会運営会議
- 21日　上京ネット実務者会議
- 22日　中部自立支援協議会医療的ケア専門部会
- 28日　基幹支援センター会議

【にしじん】

7月
- 6日　15支援センター会議
- 19日　西部医療的ケア部会定例会

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

児童館DE フードドライブ

7月に右京の児童館をかわぎりに、「フードロスを減らす」「必要な家庭への食料品の提供」などを目的に、京都市にあるすべての児童館が活動を行っています。

9月12日(月)～17日(土)の期間は、第一ブロック上京・北・中京の児童館で行いました。

西陣児童館では、学童クラブ家庭、子育て支援家庭ほか、地域の方々、法人職員からもご協力いただきました。大切な品物は、NPO法人セカンドハーベスト京都を通じて、必要としている方々へ届けられます。

センター往来

◎9月8日(木)、他県の事業所の方々がシェアハウス小松原の施設見学に来られました。

◎9月11日(日)、「西陣の朝市マルシェ」が開催され、児童館職員坂本とボランティアの大学生1名と共に遊び場ブースのお手伝いで参加させていただきました。

◎9月26日(月)、京都めいぷるワイズメンズクラブ様より地域活動支援センターふらっとへ助成金の15万円をいただきました。心より感謝申し上げます。

お祝い

◎8月25日、居宅サービス係職員の尾崎暢俊さんに女の子がご誕生されました。おめでとうございます。

編集後記

一冊の絵本から
「しんせつなともだち」
ファンイーチュン

冬が間近な木枯らし吹く秋の森、食べ物を探しに出かけたうさぎはカブを二つ見つけます、「風が　こんなにふいて　とても　さむい。ろばさんは、きっと　たべものが　ないでしょう」うさぎは、かぶを一つ食べ、もうひとつをろばの家に届けます。ちょうど食べ物探しから帰ったろばは、家に置いてあるかぶを見つけて、こじかの家に届けます。そして、こじかはこやぎの家へ。こやぎはうさぎの家へ…。順につないでいく「しんせつ」のリレーは、誰の心にもポッと明るい光を灯します。そして、期せずして自分のところに戻ってくる「しんせつ」の不思議。

自分が大切にされ、愛されているという安心感は、また別の誰かを大切にする優しさへとつながっていくのです。ともだちのことを心配するということは、大切なものや相手を思う気持ちを分かち合うということ。それは、ともだちも自分も幸せにするということにつながる、平和をつくりだす第一歩となるのだと思います。

オニヤンマだ！

動画を見ながら特訓中♪

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて（075）451－5700迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

- 法人本部
- 京都市民福祉センター
- 地域活動支援センター ふらっと
- 地域生活支援事業 レスパイトサービス
  TEL（〇七五）四五一－八九七一
  FAX（〇七五）四五一－五七〇〇
- 西陣児童館
- 京都市放課後等デイサービス支援事業
  TEL（〇七五）四五一－八九七二
  FAX（〇七五）四五一－五七〇〇
- 西陣会居宅サービス係
- 相談支援事業所 きずな
  TEL（〇七五）四一七－三四一〇
  FAX（〇七五）四四一－五二九一
- デイセンターふらっと
  TEL（〇七五）四一七－三四一一
  FAX（〇七五）四四一－五二九一
- 西陣会ホーム となり
- ショートステイ ゆう
  TEL（〇七五）四六八－三〇六八
  FAX（〇七五）四四一－五二九一
- 西陣会ホーム きたまち
  TEL（〇七五）四六二－三三五五
  FAX（〇七五）四六二－三三五六
- 京都市中部障害者地域生活支援センター にしじん
  TEL（〇七五）四一七－一六三〇
  FAX（〇七五）四五一－三六一九
- 京都市北部障害者地域生活支援センター きらリンク
  TEL（〇七五）七五二－〇一〇六
  FAX（〇七五）七五二－〇一〇七